夏目漱石『文学論』における「同感」と「同情」をめぐって

<table>
<thead>
<tr>
<th>著者</th>
<th>木戸浦 豊和</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>雑誌名</td>
<td>日本近代文学</td>
</tr>
<tr>
<td>号</td>
<td>□</td>
</tr>
<tr>
<td>ページ</td>
<td>□</td>
</tr>
<tr>
<td>発行年</td>
<td>2013年5月15日</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="http://hdl.handle.net/10097/57617">http://hdl.handle.net/10097/57617</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>
Sympathy for the Oppressed

Peace and Freedom
日本近現代文学第88集

三つとして、例えば、「文学論」を「現代のポスト・モダン主義の観点から考察」、或は「文学批評における文学批評の自我肯定」など、具体的な文脈における使用例を示す。文脈において、「文学論」はしばしば「現代の文学批評」や「文学批評の自我肯定」を指す。

本稿では、「文学論」は主に「現代の文学批評」の観点から考察され、特に「現代の文学批評」の自我肯定を指す。ただし、文脈によっては、文学批評の自我肯定を指すこともあり、文脈によって解釈される。

「文学批評における文学批評の自我肯定」は、文学批評における批評の自我肯定を指す。文学批評における自我肯定は、文学批評の自我肯定の観点から考察される。文学批評における自我肯定の観点は、文学批評における自我肯定を指す。文学批評における自我肯定の観点は、文学批評における自我肯定を指す。

このように、「文学論」は、文学批評における批評の自我肯定を指す。文学批評における自我肯定の観点から考察される。文学批評における自我肯定の観点は、文学批評における自我肯定を指す。文学批評における自我肯定の観点は、文学批評における自我肯定を指す。
日本近代文学第88巻

二、プロセスにおける「同情」— シャーロック・ホームズ

「人の声を聞く」— クララ・グローニー

「同情」は、他人の感情や状況を理解し、共感することを指す言葉です。しかし、この概念は単純に理解されることが多いです。実際には、「同情」は複雑な感情や体験に関わるものであり、しばしば社会的圧力や文化の影響を受けます。

例として、「人の声を聞く」は、他人の気持ちを理解し、共感することを指す言葉です。しかし、この概念は単純に理解されることが多いです。実際には、「人の声を聞く」は複雑な感情や体験に関わるものであり、しばしば社会的圧力や文化の影響を受けます。

「同情」は、他人の感情や状況を理解し、共感することを指す言葉ですが、それは単純に理解されることが多いです。実際には、「同情」は複雑な感情や体験に関わるものであり、しばしば社会的圧力や文化の影響を受けます。

例として、「人の声を聞く」は、他人の気持ちを理解し、共感することを指す言葉です。しかし、この概念は単純に理解されることが多いです。実際には、「人の声を聞く」は複雑な感情や体験に関わるものであり、しばしば社会的圧力や文化の影響を受けます。

「同情」は、他人の感情や状況を理解し、共感することを指す言葉ですが、それは単純に理解されることが多いです。実際には、「同情」は複雑な感情や体験に関わるものであり、しばしば社会的圧力や文化の影響を受けます。
日本近代文学史第88章

この頁では、一覧表の構築が用いられることが、一覧表用一覧表の構築が用いられることが、一覧表用一覧表の構築が用いられることが、一覧表用一覧表の構築が用いられることが、一覧表用一覧表の構築が用いられることが、一覧表用一覧表の構築が用いられることが、一覧表用一覧表の構築が用いられることが、一覧表用一覧表の構築が用いられることが、一覧表用一覧表の構築が用いられることがある。
文本来

[ページの写真からテキストを生成する]